

資料室 ニュース Vol. 25

2005年8月27日発行

9月1日は「防災の日」。この1年、地震や台風などにより大きな被害が発生しています。「減災のすすめ」は、次ページから特集しています。



センター所蔵資料の紹介コラムが始まります！

人と防災未来センター資料室で保管する震災資料は、「一次資料」と「二次資料」(図書、刊行物)に分類されています。一次資料とは避難所で使用された物や被災者の方々が書かれた手記など、いわゆる「生の」資料(原資料)のことをさし、被災地内外の方々から数多くの提供を受けました。本号から始まる「～震災を伝える一次資料から～」シリーズでは、当センターが所蔵する様々な一次資料をご紹介します。

～ 震災を伝える一次資料から ～ No.1

まちの復興を見守ってきた定点観測写真

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災から10年が経過し、当時ガレキが散乱していた街並みは少しずつ姿を変えてきました。那須塩原市在住の栃木県職員笹沼修二さんは、震災直後の1995年2月、給水ボランティアとして神戸市東灘区に足を運ばれて以来、その5年後の2000年2月、10年後の2005年2月に、それぞれ同じ地点からまちの様子を撮影されてきました。

まちの復興を見守ってきたこの定点観測写真は、震災から10周年を機にセンターが被災地の写真などをGIS(地理情報システム)の利用定着化事業の一環として募集したプロジェクト「わたしたちの個人復興史」に登録され、このたびセンターホームページから閲覧が可能となりました。

なお、笹沼さんが撮影された写真は現在、当センター資料室で震災一次資料として所蔵されています。

(資料番号: 0000393-001001-017.00001、0000393-001001-017.00002)



震災直後の新甲南市場付近の様子 1995年2月16日撮影



復興への歩みが見られる5年後 2000年2月11日撮影

笹沼さんの登録資料の閲覧方法(インターネットから):

人と防災未来センターホームページ<http://www.dri.ne.jp/>の「個人復興史サポーター募集」をクリック 「個人復興史へアクセス」をクリック 地図から「東灘区」をクリック SCALEの1/10,000を選択 サポーター愛称に「ボランティア那須塩原.s.s」と入力して「サポーター検索開始」をクリック 写真のタイトルルーペから見たい写真を選んでクリック。 下方にある「提供資料」内のカメラのアイコンをクリックすると写真が出てきます。

減災のすすめ

国の中央防災会議は今年3月、東海地震、東南海・南海地震被害の「減災目標」などを初めて定めた「地震防災戦略」を策定しました。それを踏まえ、「平成17年度防災白書」では、「減災社会」の実現に向け、行政、地域コミュニティ、個人、企業の「備え」の重要性や実践を強調しています。阪神・淡路大震災の教訓をもとに、身近な家庭や地域の「減災」について、考えてみませんか？

基本は、一人ひとりの防災意識、地域コミュニティの防災力

- ・ 災害の知識を事前に身につける
- ・ 家具の固定、非常持出しの用意や最低限3日分の食料や水の備蓄、避難場所や避難路の確認などの備えに努める
- ・ 災害時には自らの身は自ら守る、初期消火に努め、車では避難しない等の適切な行動をとる

災害への備え
を
実践する
国民運動の
展開へ

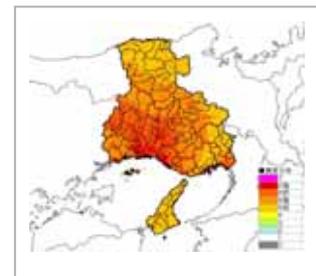
個人や企業、地域コミュニティに期待される行動のための重点課題

- ・ 住宅・建築物の耐震化が命を救う
- ・ ハザードマップで災害リスクを知る
- ・ 生死を分ける津波避難意識
- ・ 防災教育・防災訓練で災害時の行動を身につける
- ・ 防災ボランティアと防災まちづくりによる共助の取組み
- ・ 経済被害の軽減に向けた企業防災の役割

内閣府「17年度防災白書」
より抜粋

ハザードマップとは・・・

自然災害の程度や危険度、起こる範囲などを地図に示し、被害の軽減を図るために作られるもの。1995年の阪神・淡路大震災を機にハザードマップの整備が進みました。文部科学省の地震調査研究推進本部は今年3月、全国の強い揺れの予測を地図上に示した「確率論的地震動予測地図」を発表。国は、地震のハザードマップをはじめ、洪水、土砂災害、火山、津波などのハザードマップ作成の普及促進を図っています。資料室では、自治体作成の防災マップも閲覧できます。



兵庫県はホームページで地震・津波のハザードマップを公開しています。

HPアドレス:

<http://web.bosai.pref.hyogo.jp/hazardmap/index.htm>
(「フェニックス防災情報」ハザードマップ)

活断層や地震動予測に関する資料

- ・ 『日本の活断層 - 分布図と資料』活断層研究会編 東京大学出版会発行
- ・ 『確立論的地震動予測地図/活断層で発生する地震と海溝型地震の長期評価』『SEISMO (サイスモ) 2005年5月号特別付録』
(財)地震予知総合研究振興会 地震調査研究センター編集・発行

防災マップ作成に関する資料

- ・ 『津波・高潮ハザードマップマニュアル』内閣府など発行
- ・ 『地震防災マップ作成のすすめ』内閣府発行
- ・ 『地域防災デ・タ総覧 ハザードマップ編』(財)消防科学総合センター発行

「防災教育」で防災力アップ！



資料室では、遊びながら防災知識が学べる「防災いろはカルタ」(イラスト・石坂啓、NHK名古屋放送局編集、NHKサービスセンター発行)が閲覧できます。

95年に阪神・淡路大震災が起きたとき「神戸では地震がない」と信じている人が多く、地震や防災教育などへの市民の関心が低かったといわれています。もし、「大きな活断層があって地震が起きる確率が高い」ということが周知されていたら、被害を軽減できたかもしれません。

大震災を教訓に、学校、地域、家庭で、地震や地質などの科学的な知識をはじめ、命の尊さ、防災や災害時の避難方法などについて学ぶ「防災教育」の取り組みが進んでいます。

以下の防災教育に関する図書などを参考に「防災教育」を始めてみてはいかがでしょうか。

題名	著者	発行者
震災を越えて - 教育の創造的復興10年と明日の歩み -		兵庫県教育委員会
神戸市防災教育 研究実践報告集	神戸市教育委員会編	神戸市防災教育実行委員会
支え合い守り合う人づくり - すぐに役立つ防災教育実践事例集 -	新井進 他	NPO法人キャリア・ワールド
子どもぼうさい甲子園		子どもぼうさい甲子園実行委員会

人と防災未来センターでは7月30日、研究員の最新の研究成果などを発表する「ふれあい防災DAY」を開催しました！

小学生以上を対象にした体験コーナーでは、災害時に役立つ知識を交え、防災グッズ作りや非常食の試食を行いました。体験コーナーの内容は、資料室で展示中。防災グッズの作り方などについての資料の配布も行っています。ぜひ、学校や家庭でお役立てください。



Part1 ダンボールを使ったトイレ&新聞紙スリッパを作ろう！

大きな地震が起こった時、食器棚が倒れたり、窓ガラスが割れて陶器のかけらやガラスなどが散乱します。足を守るために、寝る時にも枕もとにスリッパの常備が必要です。スリッパがない時のために、新聞紙で簡単に作れるスリッパ作りに大人と子どもが挑戦しました。ダンボールを使った簡易トイレの作り方の説明もあり、参加者は熱心に聞き入っていました。



新聞紙スリッパ

Part2 非常食を食べてみよう！



非常食を試食する子どもたち

阪神・淡路大震災の時、ライフラインの中でも特に使えなくなり、困ったのが「水」です。水道が復旧完了したのは、震災から約3ヵ月後の4月17日です。水の備蓄の必要性について説明した後、乾パンやアルファ化米、缶詰などの非常食を紹介。「断水のと看、食器を汚さず^に食事をする方法は」といった質問に、子どもたちが元気に答えていました。

お知らせ

9月^{なまずえ}から資料室内の壁面展示が替わります！

テーマは「鯨絵ってなあに？ ～江戸時代の人々と地震観～」です。鯨絵の出現から江戸庶民の間に広まっていく過程を通して日本古来の地震像を振り返ります。また、当時の人々が持っていた地震に関する見解 - 自然災害に対する怒りや復興への芽生え - を、時代背景および文化的な側面から紹介します。

新着図書



資料室内には、フラワーロードの周辺景観について、震災前・震災直後・現在の3つの時点を3次元GISで再現した「阪神・淡路大震災“わたしたちの復興”プロジェクト」を展示中です。50インチのタッチパネルディスプレイを自ら操作して自由にご覧いただけます。

題名	著者	発行者
時を超えて 阪神大震災10年	産経新聞「阪神大震災」取材班	産経新聞ニュースサービス
「はるかのはまわり」物語	NHK「はるかのはまわり」取材班	日本放送出版協会
ドキュメント新潟県中越地震 10・27奇跡の救出	Jレスキュー編集部	イカロス出版
新潟県中越大震災に学ぶ ～養護教諭として取組を振り返って～	新潟県養護教員研究協議会	新潟県養護教員研究協議会
津波防災を考える 「稲むらの火」が語るもの	伊藤和明	岩波書店
防災プロジェクト 未来教育ポートフォリオでプロジェクト学習	鈴木敏恵	学習研究社
気象業務はいま 2005	気象庁	佐伯印刷
防犯・防災関係統計データ集 2005	日本能率協会総合研究所	生活情報センター
ナショナルジオグラフィックがとらえた大自然の脅威	尾澤和幸	日経ナショナル ジオグラフィック社
日本災変通志	池田正一郎	新人物往来社
日本天災地変誌	東京府学務部社会課	海路書院
安政江戸地震災害誌 上巻・下巻	佐山守	海路書院